

クロスエアタワー

CROSS AIR TOWER

No. 12-028-2013作成

新築

集合住宅／その他

事業者/発注者	東京都/東急不動産、東急電鉄、三井不動産リアルティ、大成有楽不動産			
設計	大成建設株式会社一級建築士事務所			
監理	株式会社東急設計コンサルタント			
施工	(仮称)大橋地区第二種市街地再開発事業 1-1棟新築工事共同企業体			
カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

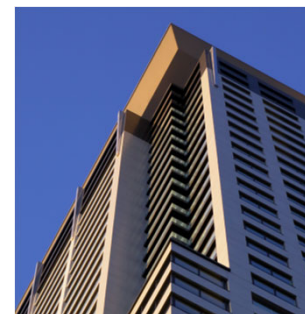
美しい街を創る。美しい景色をつくる。

周辺の街並と調和の取れた象徴的なタワーデザインを創造
住宅+複合用途では、外観の表情の違いが混在することから、その違いを気付かせないようにするために、ファサードを三層構成とすることにより、安定感のある美しさに変換し、「一体的なデザイン」とすることを目指している。

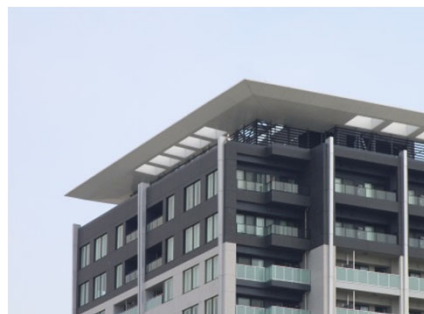
また、シンボリックなデザインを構成する飾柱（マリオン）、フィン、頂部の大庇、本体のカラーリングにより「垂直性」を強調、「シャープさ」を表現し、タワーマンションに求められる崇高さと気品あるグレードの高さを、その象徴的なシルエットが表現している。

さらに20年以上かかったという再開発の歴史を「時間」という言葉に置き換え、辿り着いたキーワード「地層」をモチーフとして、基壇部を具現化している。植栽の緑と調和する色彩を施しながら、安定感と同時にヒューマンスケールな景観を創出している。

新たな街の新たな象徴を創造した。



飾柱とフィン



宙に浮いた大庇



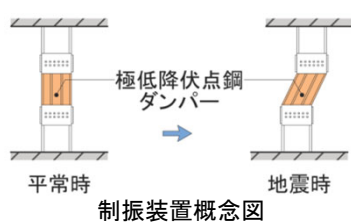
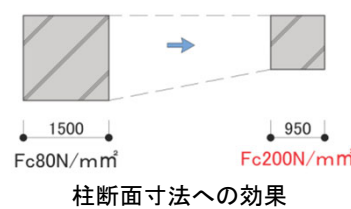
ファサードの三層構成と基壇部の「地層」

超高強度コンクリート (Fc200N/mm²) ・制振構造を採用した長寿命建築

集合住宅（超高層マンション）で国内初適用、最高強度の超高強度コンクリート Fc200N/mm²を地下階の一部の柱に採用している。超高強度コンクリートは、セメントに特殊な微粒子を混合することで、強度を高めると共にコンクリートの組織を緻密にし、中性化を抑止することで耐久性を向上している。また、強度を高めることで柱寸法を縮小することで、空間を有効に使うことができる。

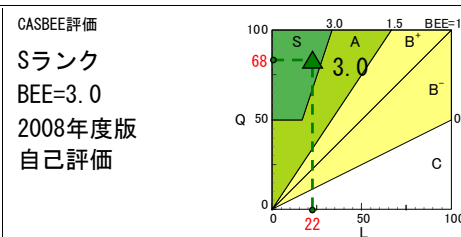
主要構造体は、大地震時の躯体の損傷を抑制すべく、極低降伏点鋼材を用いた制振構造とすることで、地震後の補修を最小限にした長寿命な構造体としている。

住居部分は、居室内に柱梁型を出さない大型スラブを採用したSI住宅とすることで、豊かで快適な空間を構成するとともに、将来の間取りの変更や設備施設の更新性を高めている。



建物データ	所在地	東京都目黒区
	竣工年	2013年
	敷地面積	7,199㎡
	延床面積	83,647㎡
	構造	RC造
	階数	地下2階、地上42階

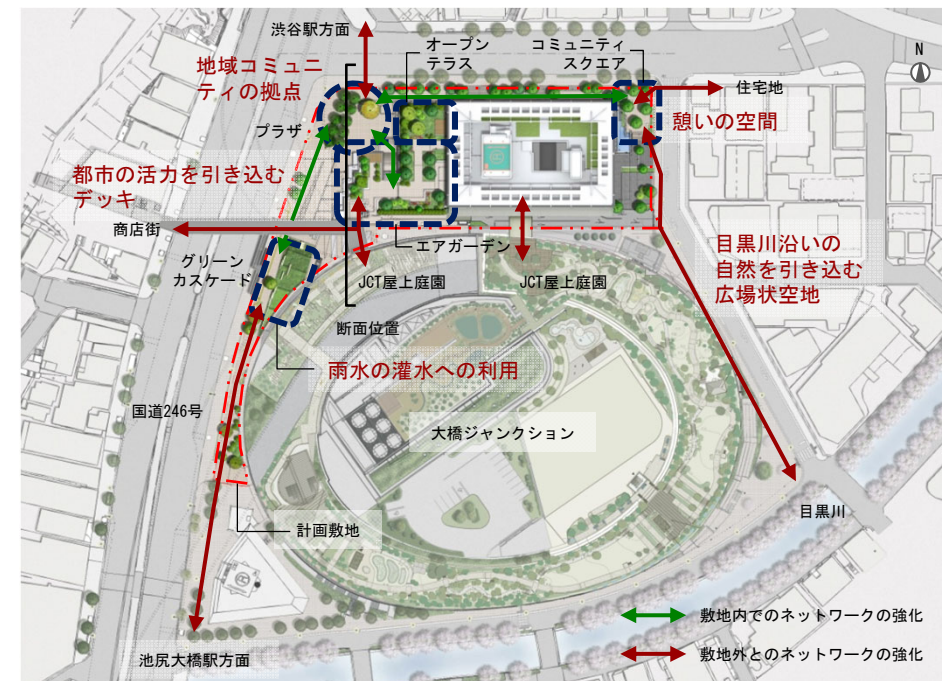
省エネルギー性能	品確法省エネ対策	等級4
----------	----------	-----



周辺とのネットワークを強化し、賑わいと憩いの空間を形成

敷地は池尻大橋駅、国道246号沿い商店街といった賑わいエリアに近接すると同時に、目黒川、首都高速大橋ジャンクション屋上庭園など豊かな水と緑に包まれた憩いの空間にも隣接している。そこで、これらと接する位置にプラザや屋上広場を配置して周辺環境とのつながりを強化し、都市の活力と自然の安らぎを享受できる魅力ある住宅地を創出した。

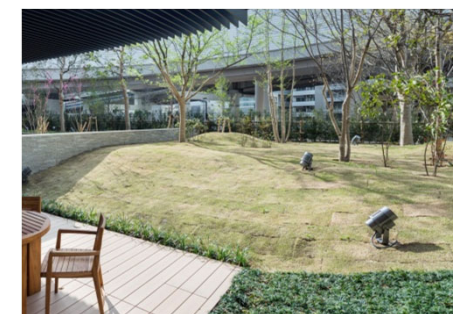
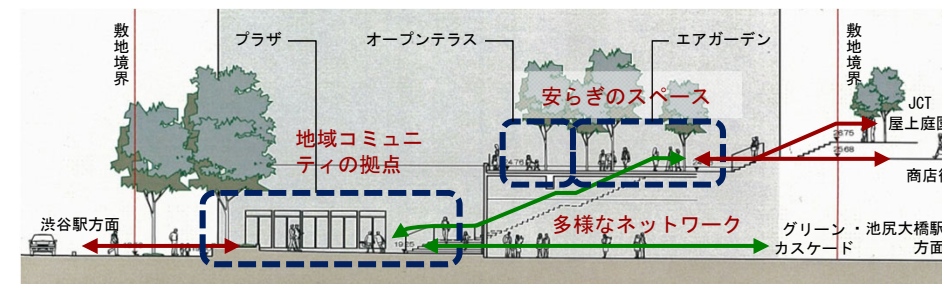
プラザは地元住民によるイベントスペースなどに活用されており、地域のアメニティ向上に役立っている。



コミュニティスクエア



エアガーデンとプラザ



オープンテラス

生物生息空間の創出

国道246号の反対側にある氷川神社の緑を敷地内に引き込むように、シラカシやクスノキなど常緑樹を主体とした植栽を行い、メジロ、ヒヨドリなど都市鳥の休息空間を創出し、地域の生態系の充実を目指した。

複層ガラスの採用

居室の窓には複層ガラスを採用しており、室内外の熱伝導を抑えることによって冷暖房効率の向上を図っている。

ヒートアイランド現象の緩和

地上部の緑化に加え、透水性レンガによる舗装や3階及び42階での屋上緑化を、東京都の指針を上回る規模で実施（緑化可能範囲に対し地上部62%、屋上62%）し、ヒートアイランド現象の緩和を図っている。

雨水再利用

雨水を濾過して中水タンクに貯留し、グリーンカスケード等の植栽の灌水に利用している。＜全体配置図参照＞

設計担当者

建築：山田達行、村元徹、渡辺修、脇田勝広、近藤香織／構造：服部敦志、中島徹／設備：吉永實、小野田修一、久保田祥彰、山下盛久
電気：吉永實、小野田修一、中井信雄、土屋暁子／ランドスケープ：蕪木伸一、山下剛史

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2. 2. 耐用性・信頼性（超高強度コンクリート、制振装置）
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出（屋上緑化）
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮（周辺の街並との調和、新たな象徴の創造）
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮（周辺とのネットワーク強化、地上部緑化）
- LR1. 1. 建物の熱負荷抑制（複層ガラス）
- LR2. 1. 水資源保護（雨水再利用）